

たけのこ ぐん < ぐんと伸びよ 北野つ子 >

北野小学校長 丹羽 郁人



背面黒板を使って担任の思いや願いを伝える。
～5組&2年3組の背面黒板「たけのこ ぐん」(写真は2年3組)

「武鹿悦子」さんが書いた「たけのこ ぐん」という詩がある。

たけのこ ぐん ぶしかえつこ

たけのこが
ぐん
せのびして
つちを わったよ

あたまに きらり
つゆを のせてる
あさの おほしさんに
もらったのかな

たけのこ のびろ
ぐん

この詩に描かれているたけのこは、地表に出て伸び上がったたけのこではない。地中であって、今、瞬間的に・短時間に、まさに「ぐん」と地に伸び出てきて、ほんのちょっぴり顔(頭)を出したばかりのたけのこである。

題名は、「たけのこ ぐん」であり、「たけのこ ぐんぐん」ではない。わざと「ぐん」一つだけにすることで、「たけのこが ほんの短い時間のあいだに伸びる速度の速さ」が伝わってくる。

また、「土を割った」と書かれている。単に土から出たというより、土に裂け目を作って、伸び上がってちょっぴり頭を出したよ、であり、「割る」という語句には、自らの意思、そしてエネルギーの力強さが感じられる。



井上旭くんの描いた「たけのこ」



松橋叶愛くんの描いた「たけのこ」

北野の子ども、この「たけのこ」のようでありたい。